

病理専門医制度運営委員会だより (第 1 号)

はじめに：

今号の病理専門医部会会報より、病理専門医制度運営委員会
で進行中の話題や周知事項について文章でお知らせすること
になりました。内容は、病理学会総会や病理専門医研修指導者連
絡会で報告・審議されたものや HP に掲載されているものと
同じですが、本制度運用の上で重要な内容が含まれておりま
すので、ご一読のうえ、周知のほどをよろしくお願ひします。

わが国における専門医制度の変更について：

日本専門医機構（以下機構と略）が発足し、病理学会も基本
的診療領域（いわゆる一階部分）の一翼を担うことになりま
した。これまで各学会によって専門医の認定や資格更新が行わ
れてきましたが、今後は機構が各診療領域の専門医の認定と
資格更新を行うこととなります。とはいえ、実際の試験や資格
更新の実務は各学会に任される方向です。しかしながら、各
学会に試験や資格更新の内容の見直しが機構から指示されて
おり、病理学会も見直すべき点に変更していく予定です。こ
の実務は、専門医認定準備ワーキンググループが行っていき
ます。

病理専門医研修制度の変更について：

機構による専門医認定は、平成 27 年度医籍登録者（初期臨
床研修修了後の平成 29 年度から専門研修開始者）からが対
象となります。病理学会は本制度を前倒して、平成 27 年度
より病理専門医研修制度を変更することが決定しております。
平成 27 年 4 月より病理専門医研修を開始した方は、それ以
前の方と大きく二つの点が変わります。一つは専門医研修期
間が従来の最低 4 年から 3 年となり、専門医試験受験に必
要な剖検症例が 40 例から 30 例に引き下げられることで、
もう一つは分子病理診断に関する講習会（病理学会総会にお
ける分子病理診断講習会もしくは日本病理学会カンファレン
ス）の受講が必須となることです。後者については現状の
剖検講習会及び細胞診講習会と同様にお考えください。

専門医試験受験に際する剖検症例の扱いについて：

平成 27 年度の病理専門医試験より、受験申請に必要な剖
検症例のうち最大 5 例までは法医学解剖（承諾・行政・新法
解剖のみ）を含めることができます。

同じく、平成 27 年度の病理専門医試験より、海外解剖症
例としてハンガリー国センメルweis 大学との連携で解剖
研修に参加すると解剖 5 例としてカウントされます。

病理専門医と指導医更新条件の変更について：

平成 27 年度より、病理専門医と病理専門医研修指導医
の更新条件が変更されます。これは各学会も同様で、機構
からの要請に基づく変更です。詳細に関しましては病理学
会 HP の規定集 <http://pathology.or.jp/news/pdf/kitei.pdf> を参照ください。以下

には大きな変更点をいくつかあげます。

・専門医資格更新には、診療（病理診断）に従事している
ことが必須となります：平成 27 年度より専門医資格更新申
請時に、病理診断実績（病理診断・細胞診・剖検・CPC など）
も提出していただきます。具体的な内容は現在機構との間
で折衝中であり、申請書類の様式についても現在準備中
です。

・専門医資格更新のポイント制が大幅に変わる予定です：
詳細につきましては規程集の P59-62（専門医資格更新につ
いての細則）をご参照ください。なお、今後機構との折衝
の結果、現在の規定の変更を余儀なくされる可能性がある
ことをご承知おきください。

・教育研修実績の証明が必要となります：専門医資格更新
には医療安全に関する講習会、感染対策に関する講習会
および医療倫理に関する講習会の 3 つの講習会受講が必
須となり、それぞれの受講証のコピーの提出が必要とな
ります。

特に、平成 27 年度に専門医資格更新を迎える方々は、
平成 27 年 11 月末までに上記 3 つの講習会を受講して
いただく必要があります。病理学会総会（名古屋）で
上記 3 つの講習会を開催しますので、確実に受講して
いただきますよう周知徹底をお願いします。

今後の日程について：

・2015 年細胞診講習会は、平成 27 年 2 月 14-15 日に
慶應義塾大学で開催されます。

・平成 27 年度病理専門医試験は、平成 27 年 8 月 1-2
日に東邦大学で行われます。

（文責：黒田誠・北川昌伸・清水道生・村田哲也）

==特集=====

病理診断管理加算 2 の厳しい現実

順天堂大学医学部附属練馬病院病理診断科 小倉 加奈子
私の所属する順天堂大学練馬病院は、病理診断管理加算が
設定された 2012 年の診療報酬改定時から、病理診断管理加
算 2 の施設基準を満たして、現在に至ります。病理診断科は、
常勤病理医 3 名体制で、1 名は松本俊治教授、1 名が私（病
理医 13 年目）、もう 1 名は来年度病理専門医試験を受けよう
とがんばっている坂口亜寿美先生です。なお、私は、臨床
検査専門医を取得しているために、臨床検査科長を兼ねて
います。

病理診断管理加算は、それを取れるか否かで病院の収入
が大きく変わることもあり、私の病院では、診療報酬改定
直後に、事務方を中心に迅速に施設基準申請が行われ、病
理側の私たちは事務からの質問に答えるだけで、気がつ
いたら申請が受理されていた…という状況です。という
わけで、私が「厳しい現実」と題したこの原稿を書くこ
とって、みなさまの参考になるのか

しら？と思いつながら、病理診断管理加算2を取る場合の難しさについて考えていきたいと思つます。

難しさその1・検体検査管理加算との兼ね合い

私の所属する病院は、生理検査と微生物検査および輸血検査を除く検体検査は、ブランチラボ方式を採用しており、通常の検体検査に関しては、常駐の検査センターの職員によって運営されているため、検体検査管理加算は「II」の施設基準を満たしていることとなります。臨床検査全てをその病院の職員の臨床検査技師で行っている場合は、検体検査管理加算「III」や「IV」の施設基準を満たしている病院が多いかと思つますが、「II」であるか、あるいは「III」ないしは「IV」を取得できるかで、病院の収益は大きく変わってきます。検体検査管理加算は、保険点数だけでなく、DPC係数にもかかわってくるからです。

病理診断管理加算を取得する場合に、注意しなければならないことが「常勤医師」の業務内容です。検体検査管理加算の特に「IV」を取得する場合は、常勤医師は、臨床検査に「専従」すなわち「もっぱら従事」することが求められます。一方、病理診断管理加算も同様に、「病理診断を専ら担当する医師」であることが条件です。よつて、完全に臨床検査と病理の業務が切り離されていることが厳しく要求されます。検体検査管理加算「IV」を取得しているにもかかわらず、実は、検査部長が病理診断も行っていた、ということは厳禁とされていますし、ちょっと迅速診断を手伝っている、あるいは、剖検当番に入っている、ということも一切禁止されています。最近の監査では、この点を厳しく追及されることが多いと聞きます。私の所属する病院では、検体検査管理加算が「II」であるために、私の名前で病理診断加算2を取得することが可能でした。

病理診断管理加算が設定されてから、常勤の臨床検査に専ら従事する医師を雇用した病院も少なくありませんが、医師不足が深刻な地方では、厳しい条件と思つます。

難しさその2・病理医不足

病理診断管理加算でもう一つ、厳しい条件となっているのが、常勤医師の経験年数における縛りです。2012年改定時は、病理診断管理加算2を算定する場合は、「病理診断医として10年以上の経験を有する常勤医が2名以上配置されている」というのが、条件となつており、厳しい～と驚いた記憶があります。2014年には若干緩和され、現在では、1名が7年以上、もう1名が10年以上となっています。さらに、ある程度の剖検数が確保され、CPCが年2回以上行われていることも条件として挙げられており、臨床各科の協力も不可欠です。病理診断管理加算取得にあたっては、臨床医や事務部門を含め、病院全体で病理診断体制を整備していくことが必要かと思つます。

現在、病理医の最低医師数倍率は、3.77で、専門医不足が叫ばれる産婦人科以上に不足している専門医です。さらに病理医の高齢化も深刻で、5年以内に、専門医の約400人の先生方が定年で常勤職を離れる可能性もあると言われています。現時点

でも、常勤病理医の確保さえ困難な状況の中、病理診断管理加算の施設基準は、今後さらに、現実にそぐわない厳しい基準になっていくことは容易に予想されます。

今回、原稿をご依頼いただき、病理診断加算の厳しい現実について考えさせていただく機会をいただきましたが、結局、行き着くところは病理医不足という大きな問題だと痛感しました。

今年春の病理学会で紹介されましたが、このような日本の深刻な病理診断の状況に、様々な学会や職種の方々たちが立ち上がつて結成されたNPO法人「がんの早期診断・治療に必要な病理診断の総合力を向上させる会」（略称：病理診断の総合力を向上させる会 <http://www.pathcare.jp/>）があります。管理加算を含めた病理診断を取り巻く状況の改善にむけては、病理医だけでなく、細胞検査士を含む臨床検査技師、臨床医、そして企業の方々等が協力することが必要不可欠と感じます。様々な専門分野の方々の知を結集し、方法を探り、積極的に病理診断そのものの認知度を挙げていくことが重要です。私も、現在、このNPO法人で、医学部進学あるいは医療系分野に興味をもつ高校生を対象に病理診断体験セミナーや講演会などの企画・運営に携わらせていただいています。病理の魅力と必要性を一般の方々にも広く知ってもらうことが、病理診断を取り巻く環境の改善につながると思つ、これからもこのような広報活動を続けよう！という気持ちを強くいたしました。

病理診断管理加算の話から少し逸れてしまいましたが、私が二人の子どもの子育てをしながら、常勤病理医として働いているのは、上司の松本教授、そして、一緒に仕事をする機会の多い総合外科や産婦人科をはじめとする臨床医の先生方の理解があるからです。子どもの行事があれば、早くお子さんのために家に帰らなきゃだめでしょ？と、気を遣ってくれる臨床医の先生方がいるからこそ、楽しく働くことが可能で、私はかなり恵まれた環境で仕事をしていると思つます。子育て中のママ（もちろんパパも！）病理医が常勤として働けるような環境づくりも加算取得にもきわめて重要です。最終的には、病理医の業務環境の改善に、すべての解決策があるように思つます。

病理診断管理加算に関わる標榜科変更の顛末

福井県立病院病理診断科 海崎 泰治

当院は病床数961床の日本海側最大の県立病院で、都道府県がん診療連携拠点病院を始め、数々の拠点病院に指定されている急性期病院です。しかし、病理診断部門は非常に手薄で、20世紀には長らく非常勤医のみで対応してきました。外科医だった私を無理矢理病理診断部門にコンバートしたのが1999年、その後は当然一人病理医体制で年間病理検体数約9,500件、細胞診約8,500件、剖検約15体を黙々とこなしてきました。そ

の後苦節 12 年，2011 年より常勤病理医 2 名体制となり，忙しさは以前とあまり変わらないようには思いますが，ようやく人並みの生活が送れるようになったと実感しています。

当科の標榜に関しては，当初，医療法の関係で院外標榜名はなく，検診部門の一院内標榜科として「臨床病理研究科」という，臨床なのか，病理なのか，研究なのか理解不能な科名を名乗っていました。その後 2004 年の新病院開設にあわせ「臨床病理科」という名称に変更されました。2008 年には医療法改正で「病理診断科」の標榜が正式に可能となりましたが，当院は院内標榜のまま「臨床病理科」を継続していました。

当科の診療報酬は，以前より一人病理医で検体数も多かったので当然のごとく大黒字でした。その後も「病理診断科」が算定可能となり，2012 年には「病理診断管理加算 II」も算定できるようになったので，院内のがん診療の総元締めのような大きな面をすることができていました。

今回 2014 年の診療報酬改訂で病理診断管理加算を算定する施設は「病理診断科」の標榜が必要となりましたが，比較的診療報酬について知識をもっていた私は，「病理」の名称が入っていれば診療科名変更までは要求されないだろうと鷹をくくっていました。近隣の病理医からは非常な危機感を抱いて相談されましたので，念のため，当院の事務局を通じて近畿厚生局に確認をしていただきました。その回答はやはり診療科名変更(院外標榜)が必要で，それも「病理診断科」でなくてはならないという返事でした。当院は福井県立の病院なので，ほんの少しの規則を変更するにも県の条例改正が必要で，院外標榜科の新設，標榜科名変更にもそれが必要とのことでした。条例改正はお金儲けのために行うものではなく県民サービスの向上のために行うもので，何らか県民サービスに貢献できる理由が必要なのですが，事務の方で「今回の施設基準の見直しは病院における病理診断業務の強化と明確化を促すもので，当院としてもその部門の名称を明確に位置づける必要がある」とうまい作文をしていただきました。そんなこともあって，本年 9 月 1 日より院外標榜科として無事「病理診断科」を名乗れるようになりました。

標榜科は仕事の根幹をなすもので，私としては臨床病理科という病理診断をするが検査の方にも関わっているよという隠れ蓑にできるような標榜名にいつの間にか思い入れが強くなっていました。今回のお上からの押しつけのような「病理診断科」には今のところ全く慣れておりません。でも，この診療報酬改正がなかったら，いつまでたっても院外標榜にすることはできなかったと思うとラッキーだったのかもしれない。いずれにしろ，無事標榜変更が終了しありがたく思っています。今後はまず，たまにしか使わない名刺を変更する必要があるようです。

病理診断科標榜

九州大学形態機能病理 大石 善文

今回の特集記事は「今年度の診療報酬改定で，病理加算を取得するためには厚生局への病理診断科標榜届が必須となった。今回初めてその手続きを行った施設から手続きの混乱や実際の手続き後の状況の報告をいただく。」というテーマであった。九州沖縄地区でも該当施設が多数あり，今回のテーマのようなエピソードが無いかわうたところ，以下のような意見が聞かれた。

意見 1 (大学病院)

問題は国立大学付属病院病理部の病理診断科の設置に関しては各大学の足並みが全然そろわず，〇〇大でも院長に当初から私が病理診断科標榜の要望書を出しても，すぐに今まで以上の加算点などの収益には直結せず，病理外来の設置の場所の有無や病院内の臨床外来科と病理部の機構図の場所などに重点を置かれて，考慮されないうまででした。各大学病理部の先生方も大学によっては相当エネルギーを要された事務長や病理部長もおられますが，今回の診療保険上の病理加算が，病理診断科設置とセットで明記された事により大学病院にとっても病理診断科設置が最優先事項になって，全国大学附属病院に病理診断科設置が浸透したのではと思います。私は国立大学付属病院病理部会議で当初より病理診断科標榜の各大学の取り組み状況が議題になっていましたが，病理診断科標榜が認可された時点で標榜設置の義務化と病理加算がセットで全国の病院に通達してあれば，何ら問題なく設置できたのでは当初より感じていました。医療費抑制の政策の関係もあるのですが，若手病理医育成に遅れが出たのも一因と思います。大学病院以外の病院は病理加算の有無にかかわらず，院内標榜で，もよりの保健所への申請で設置出来ていたとも聞いております。

意見 2 (一般病院)

確かに，病理加算をとるために，かなりバタバタとして混乱してしまったのは事実なのですが，私の施設では逆にこれが好都合でした！！と申しますのも，私は以前より病理(診断)医は臨床医であり，病院で働く以上は，診療科標榜すべきだという信念のもと，当院に勤務当初より院長にお願いして来たのですが，一時は実現しそうになっても，院長交代とか，院長の考えで頓挫していました。で，この 16 年間待ちに待って，なんと，診療科標榜しないと病理加算がとれないということになって，眼がハートマークになりました。で，「病理診断科標榜しないと，加算とれませんけど，どうするんですか?!」と半ば脅迫気味にせまったら，それはいけないということで標榜科申請をしてもらいました。ある意味，何はともあれ，今回のことでいい方向にいったと私なりに思っております。

==私の趣味=====

三重大学医学部附属病院病理部 内田 克典

ある研究会の閉会後、「私の趣味」の原稿依頼を頂戴した。今までの趣味について思い出してみた。なんやかんやと手を出しているが、とにかく浅い。

短かった趣味

海外旅行；学生時代に先輩の海外一人旅に触発され、私も始めてみた。欧州を中心に15カ国ほど訪れた。最終学年はケニア、タンザニアと旅行して、最後はエジプトで締めくくった。1泊100~500円程度の宿ばかりで疲れた。今はお金あるけど時間無し。

水泳；学生時代に先輩から馬鹿にされたので始めた。その後輩が平泳ぎの指導をしてくれて次第に泳げるようになった。しかし先輩はもっぱらクロールで泳ぎ、私は平泳ぎのみ。スピードでは永遠に勝てず終了。何故わざわざ平泳ぎを教えてくれたのかを考えると腹が立つ。

マウンテンバイク；景色で当たったので乗り始めた。山にも自転車を持ち込んで楽しんだ。ある日、山から下ってきてもうすぐ麓というところで、不運にも岩にぶつかって転倒。不幸にもそこに何故か落とし物（トイレのない山にありがちな）があり、不運に不幸が重なった。これがトラウマになり終了。

時計；ある外勤先のN先生が3桁（意味わかりますよね）を何本も所有していた。興味が湧いた。資金難ではあったが、気に入った2桁をなんとか購入。N先生にみせたら「趣味には金かけろ！」と叱責され終了。やっぱり時計は金次第ですよ。

長く続いている趣味と現在継続中の趣味

カメラ；最初は写真撮影が面白く、いろいろ撮影した。機材はどんどん増えていったが（ハーフ1台、35mm 4台、6×6cm 2台、6×7cm 1台、8×10インチ1台）、最近撮るのは子供ばかり。中大判は重い。妻には収集はもう止めてと罵られる。

音楽鑑賞；クラシックのみ。妻が胎教にと始めたのがきっかけで、もう10年を超えた。毎日なんらかクラシック音楽を聴いているが、詳しいことはよく解らない。まさしく音楽が流れているだけ。最近、同僚H先生の奥様がバイオリンのソロアルバムを出した。早速買わされた。最近はこればかり聴いている。皆さんもどうですか？

習字；7-8年まえ、妻に誘われて習字教室に行き始めた。1年に1つ、軸や額の作品を作製している。しかし普段書く字は汚く、病院スタッフからは残念がられている。

バイク；S主任教授から「えっ！！内田君、バイクの免許持ってないの？」と小馬鹿にされた。アラフォーだったが、悔しくて教習所直行。大型まで免許取得。その後「えっ！！内田君、バイク持ってないの？」とまた小馬鹿にされた。いまは水平対向1,200ml。

英会話；私は泌尿器科医から転向し病理医となった。泌尿器科医時代と病理医時代の2回、計2年半アメリカに留学してい

るが、なんと英語が出来ない。あまりに酷いので数年前に始めた。でもやっぱり喋れない。残念。

病理医；昨年、ようやく泌尿器科医歴よりも病理医歴の方が長くなった。いまは堂々と「病理をしています。以前はす・こ・し泌尿器科医をしていましたけどね」と言っている。

==支部報告=====

--北海道支部-----

北海道支部編集委員 深澤雄一郎

学術活動報告

第167回日本病理学会北海道支部学術集会（標本交見会）が村岡俊二先生（札幌厚生病院臨床病理科）のお世話で2014年9月20日（土）、札幌厚生病院新棟・会議室において行われました。検討された症例は以下のとおりです。

番号 / 発表者（所属） / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名（主なもの） / 臨床診断 / 発表者の病理診断 / 討論後の病理診断

14-11：小山田ゆみ子¹、齊藤典子²、佐々木了³、西岡典子⁴、清水匡⁴ / ¹KKR札幌医療センター斗南病院病理診断科、²同形成外科、³同血管腫・血管奇形センター、⁴同放射線診断科 / 10歳代 / 女性 / 右下腿 / 若年女性の片側性下肢肥大 / Microcystic lymphatic malformation (ISSVA分類) / Microcystic lymphatic malformation (ISSVA分類)

14-12：柳内 充、秋元真祐子、辻 隆裕、伊丹弘恵、石井保志、深澤雄一郎 / 市立札幌病院 病理診断科 / 40歳代 / 女性 / 肺 / 中年女性にみられた肺腫瘍 / Pulmonary microcystic fibromyxoma / pulmonary microcystic fibromyxoma

14-13：立野正敏¹、米原利栄²、青木直子³、柳内 充⁴ / 釧路日赤病院 / ¹病理診断科、²同産婦人科、³旭川医大病理学講座、⁴市立札幌病院病理診断科 / 70歳代 / 女性 / 子宮 / ちょっと変わった子宮内膜腫瘍 / Dedifferentiated carcinoma / Dedifferentiated carcinoma

14-14：鹿野 哲、松田玲奈、伊藤真理子、八代真一、村上洋平、佐々木豊 / 勤医協中央病院病理診断科 / 60歳代 / 男性 / 大網 / 大網腫瘍の一例 / Omental (myxoid) epithelioid GIST / Omental (myxoid) epithelioid GIST

14-15：中智 昭¹、畑中佳奈子¹、九嶋亮二²、清水亜衣、藤澤孝志¹、佐藤大介¹、菅野宏美¹、高桑恵美¹、間部克裕³、海老原裕磨⁴、七戸俊明⁴、三橋智子¹、松野吉宏¹ / ¹北海道大学病院病理診断科、²滋賀医科大学附属病院病理診断科、³北海道大学病院消化器内科、⁴同消化器外科II / 60歳代 / 男性 / 胃 / 胃粘膜下腫瘍の一例 / Plexiform fibromyxoma (plexiform angiomatoid myofibroblastic tumor) / Plexiform fibromyxoma (plexiform angiomatoid myofibroblastic tumor)

14-16：市原 真、岩口佳史、後藤田裕子、村岡俊二 / JA北海道厚生連札幌厚生病院 病理診断科 / 20歳代 / 女性 / 甲状腺 / 甲状腺腫瘍の一例 / Papillary carcinoma, cribriform-morular variant / Papillary carcinoma, cribriform-morular variant

14-17：立野正敏 / 釧路日赤病院 病理診断科 / 70歳代 / 女性 / 肝 / 管内胆管癌が疑われた一例 / Sclerosed hemangioma / Sclerosed hemangioma vs. IgG4-related disease

第168回日本病理学会北海道支部学術集会（標本交見会）が村岡俊二先生（札幌厚生病院臨床病理科）のお世話で2014年11月19日（土）、札幌厚生病院新棟・会議室において行われ

ました。検討された症例は以下のとおりです。

- 14-18: 大森優子¹, 野口寛子¹, 原田 拓², 野村昌史², 篠原敏也¹ / ¹手稲溪仁会病院 病理診断科, ²同消化器病センター / 60 歳代 / 男性 / 結腸 / 特異な組織像を示した盲腸ポリープ / Plasmablastic lymphoma 腺腫内癌の直下に同所性発生 / Plasmablastic lymphoma
- 14-19: 武田広子¹, 鈴木宏明¹, 山城勝重¹, 中西勝也² / ¹北海道がんセンター 病理診断科, ²札幌北辰病院病理診断科 / 70 歳代 / 女性 / 大腿骨 / 特異な像を示した骨病変の一例 / Metastatic carcinosarcoma (uterus) / Metastatic carcinosarcoma (uterus)
- 14-20: 後藤田裕子¹, 岩口佳史¹, 市原 真¹, 村岡俊二¹, 後藤礼大² / ¹札幌厚生病院 病理診断科, ²同整形外科 / 20 歳代 / 女性 / 指節間関節 / 中指遠位指節間関節の異所性骨化が疑われた 2 例 / Tenosynovitis with psammomatous calcification / Tenosynovitis with psammomatous calcification

-- 関東支部 -----

第 65 回病理学会関東支部学術集会報告

横浜市立大学医学部病態病理学 大橋 健一

2014 年 12 月 21 日, 横浜市立大学医学部において第 65 回病理学会関東支部学術集会・第 135 回東京病理集談会が開催されました。従来東京病理集談会では剖検例の検討を行ってきましたが, 昨今の剖検数の減少によって演題の確保が難しくなり, ここ最近では手術例等の演題も受け付けています。今回は若手病理医に向けた剖検例の検索の仕方, 見方に関する特別講演を 2 題, 一般演題 8 題 (剖検例 5 例, 手術例 3 例) の症例提示, 検討が行われました。当日は 178 名の参加者があり, 活発な質疑, 討議があり, 進行の時間配分に気を遣うほどの大盛会となりました。少し, 内容を盛り込みすぎた結果, 講演時間, 質疑応答の時間が十分でなかった点が反省点でしたが, 演者, 参加者の協力のおかげで大幅な遅れもなく, 会を終えることができました。終了後の懇親会にも予想以上の参加者があり, 活発な情報交換が行われたことと思われます。

当日のプログラムは以下の通りです。

【一般演題①】

座長: 比島恒和 (がん・感染症センター都立駒込病院・病理科)

1. 臨床的に肝硬変の合併を疑われた無 γ グロブリン血症の剖検例
安井万里子 (東京大学医学部・附属病院病理部) 他
2. 卵巣癌が疑われ, 死後 CT を施行した 1 剖検
田島信哉 (聖マリアンナ医科大学・病理学) 他
座長: 林 宏行 (横浜市民病院・病理診断科)
3. 顕著な隆起性変化を示した stomal hypertrophic gastritis と考えられた一例
天野雄介 (日本大学医学部・病態病理学系・病理学) 他
4. 診断に難渋した心嚢内悪性腫瘍の一解剖例
松嶋 惇 (千葉大学医学部・附属病院病理部)

【特別講演①】

講師: 新井信隆 (東京都医学総合研究所)

演題: 中枢神経系検索のポイント: マクロ・ミクロの見方

座長: 青木一郎 (横浜市立大学医学部・分子病理学)

【特別講演②】

講師: 植草利公 (関東労災病院・病理診断科)

演題: 剖検例を含めた非腫瘍性肺疾患のアプローチ

座長: 奥寺康司 (横浜市立大学医学部・病態病理学)

【一般演題②】

座長: 元井紀子 (がん研究会癌研究所・病理部)

5. ANCA 関連顕微鏡的多発血管炎の 1 剖検例
児玉真 (東京医科歯科大学医学部・附属病院病理部) 他
6. 胃癌による pulmonary tumor thrombotic microangiopathy に対して imatinib による治療が奏効し延命が可能であった一剖検例
阿部浩幸 (東京大学医学部・附属病院病理部) 他
座長: 柴原純二 (東京大学医学部・人体病理学)
7. 診断困難であった脳腫瘍の一例
井野元智恵 (東海大学医学部・基盤診療学系・病理診断学) 他
8. B 型肝炎変を背景に発生した混合型肝癌 (肝細胞癌-胆管細胞癌) の一切除
河辺昭宏 (国家公務員共済組合連合会・虎の門病院・病理診断科) 他

第 68 回埼玉病理医の会

期日: 平成 26 年 11 月 14 日 (金)

会場: 埼玉医科大学かわごえクリニック 大会議場 (6 階)

世話人: 清水道生

司会: 山口 岳彦 (獨協医科大学越谷病院)

症例 1

出題者氏名・所属: 藤野 智史 (埼玉医科大学総合医療センター病理部)

年齢・性別: 0 歳, 男児

臓器・臨床診断: 胎盤, ダウン症候群

病理診断: Transient abnormal myelopoiesis (TAM, 一過性異常骨髄増殖症)

検討内容: TAM を呈したダウン症新生児症例で, その特徴, 発生機序, 予後について。

症例 2

出題者氏名・所属: 安達 章子 (さいたま赤十字病院)

年齢・性別: 70 代, 女性

臓器・臨床診断: 脊椎, 原発不明癌・多発脊椎転移

病理診断: Methotrexate-associated lymphoproliferative disorder (Hodgkin lymphoma)

検討内容: RA の病歴があり, methotrexate 服用の病歴がみられ, EBER も陽性で, 上記診断に至った。

司会: 安達 章子 (さいたま赤十字病院)

症例 3

出題者氏名・所属: 山口 岳彦 (獨協医科大学越谷病院)

年齢・性別: 60 代, 男性

臓器・臨床診断: 後腹膜, 後腹膜腫瘍

病理診断: Dedifferentiated liposarcoma

検討内容: 10 年前に精巣腫瘍 (atypical lipomatous tumor) 切除の病歴があり, 今回の腫瘍は異時性の脱分化と考えられた。

症例 4

出題者氏名・所属: 野首 光弘 (自治医科大学さいたま医療センター)

年齢・性別: 70 代, 女性

臓器・臨床診断: 顎下腺, 顎下腺腫瘍

病理診断: 鑑別診断として, basal cell adenoma/basal cell adeocarcinoma/ade-

noid cystic carcinoma が挙がる。
検討内容：免疫組織化学的には basal cell adenoma/adenocarcinoma が示唆されるが、adenoid cystic carcinoma を思わせる組織像もみられる。
症例 5（追加症例）
出題者氏名・所属：野首 光弘（自治医科大学さいたま医療センター）
年齢・性別：70 代, 男性
臓器・臨床診断：空腸, 空腸腫瘍
病理診断：Angiomatoid fibrous histiocytoma
検討内容：部位としては稀で、epithelioid sarcoma などとも鑑別にあがる。

司会：伴 慎一（済生会川口総合病院）
症例 6
出題者氏名・所属：金 玲（埼玉医科大学大学病院）
年齢・性別：60 代, 女性
臓器・臨床診断：腎臓, 左腎癌
病理診断：Chromophobe renal cell carcinoma, oncocytic variant
検討内容：c-kit 陰性など 2013 年に新しく提唱された variant に合致する。
症例 7
出題者氏名・所属：李 治平（埼玉医科大学国際医療センター）
年齢・性別：80 代, 男性
臓器・臨床診断：肺, 右下葉肺癌
病理診断：Basaloid carcinoma (WHO2015)
検討内容：現行の WHO (2004) では squamous cell carcinoma, basaloid variant に相当するが、2015 の WHO 分類では Basaloid carcinoma となる。

--- 中部支部 -----

中部支部編集委員 森谷 鈴子

第 74 回日本病理学会中部支部交流会

2014 年 12 月 20 日（土）

会場：名古屋大学附属病院中央診療棟 3 階講堂

世話人：下山芳江先生（名古屋大学附属病院病理部）

参加人数：209 名

【症例検討】

- 1315 静岡市立静岡病院病理診断科 江河勇樹
30 代 男性 皮膚 Primary cutaneous anaplastic large cell lymphoma with pseudoepitheliomatous hyperplasia.
表皮の変化が派手であったため、リンパ増殖性病変の方が見落とされる可能性がある教訓的な症例。
- 1316 公立松任石川中央病院病理診断科 丹羽秀樹
10 代 女性 皮膚 Pigmented epithelioid melanocytoma
予後良好であるがセンチネルリンパ節への転移がありえることや Carney complex との関連についてコメントがあった。
- 1317 富山県立中央病院病理診断科 内山明央
20 代 女性 皮膚 Composite hemangioendothelioma
母趾に発生した例で、epithelioid, retiform な形態が混在した。Epithelioid な部分については angiosarcoma-like に近い形態であった。
- 1318 諏訪中央病院病理診断科 浅野功治
60 代 女性 皮膚 Sand flea infection
旅行先の南米から持ち帰ったと思われる症例で、虫体の組織学的構造や表皮との位置関係が詳細に解説された。
- 1319 西尾市民病院病理診断科 伊藤真文
80 代 女性 乳腺 Apocrine DCIS arising in ductal adenoma with myoepithelial hyperplasia

皮膚潰瘍を伴う巨大な腫瘍で、apocrine DCIS の背景に異型アポクリン化生を含む多彩な良性変化が混在した。

- 1320 愛知県がんセンター中央病院遺伝子病理診断部 村上善子
60 代 女性 Invasive carcinoma, NOS, triple-negative subtype, arising in microglandular adenosis.
投票では microglandular adenosis の領域を tubular carcinoma ととらえた診断も多く、両者の鑑別に S-100 蛋白免疫染色が有用であることがよく実感された。
- 1321 磐田市立総合病院病理診断科 鈴木潮人
30 代 女性 肺 NUT-midline carcinoma.
本例ではよく知られている BRD3 や BRD4 との融合は見られなかったが、RACE 法、direct sequencing によって NSD3 と NUT の間に融合が確認された。
- 1322 刈谷豊田総合病院病理診断科 佐藤俊之
80 代 男性 縦隔 Classical Hodgkin lymphoma, nodular sclerosis.
線維化領域が非常に広範囲で、針生検による診断が困難であった。Classical Hodgkin lymphoma が高齢者でも稀ではないこと、診断困難例が多いことが予後不良に関与している可能性についてコメントがあった。
- 1323 聖隷浜松病院病理診断科 新井義文
40 代 女性 脳 Choroid plexus carcinoma (mucinous adenocarcinoma)
類似症例の報告があることや脈絡叢の上皮が tubular (acinar) transformation を起こしえることが呈示された。
- 1324 市立砺波総合病院病理科 杉口俊
40 代 男性 中耳 Middle ear adenoma
本質的には carcinoid であり、“adenoma” という呼び方の是非について議論になった。
- 1325 朝日大学歯学部口腔病理学分野 永山元彦
10 代 男性 上顎歯肉 Bizarre parosteal osteochondromatous proliferation (BPOP)
初発時は chondromyxoid fibroma が考えられたが、再発時には骨成分が出現し、最終的には reactive な osteochondromatous proliferation と診断された。
- 1326 福井大学医学部附属病院病理診断科 小上瑛也
70 代 男性 顎下腺 Salivary duct carcinoma, mucin-rich variant
Pleomorphic adenoma を背景に発生していると考えられた。Salivary duct carcinoma に様々な variant があることも紹介された。
- 1327 一宮市立市民病院病理診断科 露木琢司
70 代 男性 耳下腺 Carcinoma ex pleomorphic adenoma, invasive type, hybrid carcinoma (salivary duct carcinoma+myoepithelial carcinoma)
Pleomorphic adenoma の中にはあらゆる腫瘍は発生しうることやそれらの予後について議論になった。
- 1328 藤田保健衛生大学病理診断科 櫻井映子
20 代 女性 腎臓 Adult Wilms' tumor, mixed type, favorable histology
稀な典型例で、小児型との比較や staging について説明された。
- 1329 木沢記念病院病理診断科 杉山誠治
70 代 男性 腎臓 IgG4-related retroperitoneal fibrosis
腎盂を主座とした稀な発生部位で、診断名に“retroperitoneal”を付けることの妥当性について議論があった。
- 1330 JA 愛知厚生連海南病院病理診断科 石川操
70 代 男性 前立腺 Adenocarcinoma in situ
Precursor-like intraductal carcinoma of the prostate に相当する病変と考えられた。前立腺全摘標本全割にても浸潤癌病巣が全く認められなかった。High-grade PIN との鑑別についても議論になった。

- 1331 信州大学医学部附属病院臨床検査部 一萬田正二郎
20代 女性 肝臓 Mesenchymal hamartoma
画像所見が特徴的で、病理所見も典型例と考えられた。過去の交見会で呈示された症例も紹介された。
- 1332 静岡県立静岡がんセンター 角田優子
70代 男性 肝臓 Intraductal papillary mucinous neoplasm with an associated invasive adenocarcinoma, oncocytic type
胆管との交通が無く、MUC6陽性であったことから、付属腺由来の可能性が考えられた。
- 1333 JA 長野厚生連佐久総合病院佐久医療センター 石亀廣樹
70代 男性 胆道 Carcinosarcoma of the bile duct
肉眼像や組織像は比較的典型的であったが、胆嚢管と胆管の合流部に発生しており、稀な発生部位であった。
- 1334 名古屋市立大学臨床病態病理学 伊藤洋平
50代 男性 睪臓 Undifferentiated carcinoma with osteoclast-like giant cells
Atypical mononuclear cell, non-atypical mononuclear cell, osteoclast-like giant cell, ductal carcinoma の成分が確認され、それらの免疫組織化学的相違が詳細に示された。
- 1335 金沢医科大学臨床病理学 中田聡子
40代 女性 子宮 Solitary fibrous tumor
組織像が low-grade endometrial stromal sarcoma に類似していたが、CD10陰性、CD34が陽性であったことから詳細な遺伝子検査 (NAB2-STAT6 fusion) がなされて、本診断に至った。形態像のみからでは診断が困難であるとのコメントがあった。
- 1336 JA 三重厚生連松坂中央総合病院臨床病理科 杉本寛子
50代 女性 卵巣 Borderline mucinous cystic tumor with mural nodule, anaplastic carcinoma.
一見 sarcoma-like mural nodule に類似するが、内部に未分化癌の成分が埋もれており、aggressive な臨床経過を辿った教訓的症例であった。
- 1337 公立陶生病院病理診断科 滝哲郎
30代 女性 Intraplacental choriocarcinoma
胎児ジストレスのため胎盤が病理に提出され、偶然発見された。胎児ジストレスの原因について議論になった。
- 【第73回日本病理学会中部支部交見会学術奨励賞表彰式】
学術奨励賞 (カテゴリー A: 専門医試験合格前)
佐藤俊之先生 (刈谷豊田総合病院病理診断科)
奥野のり子先生 (市立砺波総合病院病理科)
学術奨励特別賞
小林翔太先生 (信州大学医学部附属病院臨床検査部)
学術奨励優秀発表賞
塩沢哲先生 (JA 長野厚生連佐久総合病院佐久医療センター臨床病理部)
内田克典先生 (三重大学医学部附属病院病理部)

次回学術集会

第18回日本病理学会中部支部スライドセミナー
日時: 2015年3月14日(土)
会場: 愛知医科大学
世話人: 高橋恵美子先生 (愛知医科大学病院病理部)
テーマ: 悪性リンパ腫の病理

東海病理医会 検討症例報告

第303回

(平成26年8月16日 参加者20名 於: 藤田保健衛生大学)

症例番号 / 病院名 / 病理医 / 年齢 (歳代) / 性 / 臓器 / 臨床診断 /

病理組織学的診断

4715 / 藤田保健衛生大学 / 櫻井映子 / 20 / 女 / 卵巣 / 卵巣腫瘍破裂 /

Immature teratoma, Grade I

4716 / 藤田保健衛生大学 / 櫻井映子 / 60 / 男 / 後腹膜 / 骨盤内腫瘍 /

Mucinous cystic tumor of borderline malignancy

4717 / 藤田保健衛生大学 / 岡部麻子 / 60 / 女 / 十二指腸 / GIST /

Gastrointestinal stromal tumor

4718 / 名古屋記念病院 / 西尾知子 / 40 / 男 / 後縦隔腫瘍 / 神経原性腫瘍 /

IgG-4 related sclerotic disease

4719 / トヨタ記念病院 / 北川 諭 / 80 / 男 / 皮膚 / 紅斑 /

Intravascular lymphoma

4720 / 静岡厚生病院 / 浦野 誠 / 60 / 男 / 皮下 / 皮下腫瘍 / Rheumatoid nodule

4721 / 藤田保健衛生大学 / 桐山論和 / 30 / 女 / 皮膚 / 皮膚腫瘍 /

Dermal mesenchymal tumor

4722 / 静岡赤十字病院 / 桐山論和 / 60 / 男 / 虫垂 / 急性虫垂炎 /

Balium appendicitis

4723 / 岐阜大学附属病院 / 小林一博 / 30 / 男 / 後腹膜 / 後腹膜腫瘍 /

Angiomyolipoma, epithelioid type

4724 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 50 / 女 / 子宮 / 子宮癌悪性リンパ腫 /

Dedifferentiated endometrioid carcinoma

4725 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 80 / 男 / 皮膚 / 壊疽 /

Cholesterin embolism

4726 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 40 / 女 / 肝 / 肝腫瘍 /

Epithelioid hemangioendothelioma

4727 / 小牧市民病院 / 栗原恭子 / 60 / 男 / 脳 / 神経細胞腫 / Subependymoma

4728 / 小牧市民病院 / 栗原恭子 / 40 / 男 / 肝 / 肝腫瘍 / Angiosarcoma

第304回

(平成26年9月20日 参加者13名 於: 藤田保健衛生大学)

4729 / 藤田保健衛生大学 / 櫻井映子 / 70 / 女 / 乳腺 / 乳腺 /

Invasive ductal carcinoma with lobular differentiation

4730 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 10 / 男 / 副鼻腔 / 副鼻腔腫瘍 /

Fibrous dysplasia

4731 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 50 / 男 / 顎下腺 / IgG4関連疾患 /

IgG4 related sclerosing sialadenitis

4732 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 70 / 男 / 甲状腺 / 乳頭癌 /

Columnar cell carcinoma

4733 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 10 / 男 / 膝関節 / 軟部腫瘍 /

Clear cell sarcoma of soft part

4734 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 60 / 女 / 肝 / 肝腫瘍 / Angiomyolipoma

4735 / 名古屋記念病院 / 西尾知子 / 50 / 女 / 腎上皮 / 腎腫瘍 / Angiomyolipoma

4736 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 30 / 男 / 尿管 / 尿管嚢胞 /

Urachal cyst

4737 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 20 / 男 / 小腸 / 小腸穿孔 /

Crohn's disease

4738 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 30 / 女 / 蝶形骨洞 / 蝶形骨洞腫瘍 /

Ectopic pituitary adenoma

4739 / 小牧市民病院 / 栗原恭子 / 60 / 女 / 睪 / グルカゴノーマ / Glucagonoma

4740 / 小牧市民病院 / 栗原恭子 / 5 / 男 / 脳 / 脳幹部腫瘍 /

Anaplastic ependymoma

第 305 回

(平成 26 年 10 月 18 日 参加者 20 名 於：藤田保健衛生大学)

4741 / 藤田保健衛生大学 / 岡部麻子 / 60 / 女 / 肺 / 肺腫瘍 /

Sclerosing hemangioma

4742 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 30 / 女 / 肺 / 転移性肺腫瘍 /

Choriocarcinoma

4743 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 30 / 女 / 鼻腔 / 鼻腔腫瘍 /

Olfactory neuroblastoma

4744 / 静岡厚生病院 / 浦野 誠 / 40 / 女 / 子宮 / 子宮筋腫 /

Glassy cell carcinoma

4745 / 静岡赤十字病院 / 桐山論和 / 80 / 女 / 皮膚 / 皮膚腫瘍 /

Seborrheic keratosis with Bowenoid change

4746 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 70 / 女 / 気管支 / 気管支腫瘍 /

Leiomyoma

-- 近畿支部 -----

近畿支部編集委員 桑江 優子

I. 活動報告

第 67 回日本病理学会近畿支部学術集会在下記の内容で開催されました。

(検討症例、画像等につきましては (<http://jspk.umin.jp/member/program67th.pdf>) にて閲覧可能です。パスワードの必要な方は事務局までお尋ね下さい)

日時：2014 年 12 月 13 日 (土)

場所：大阪市立大学医学部

世話人：村垣泰光先生 (和歌山県立医科大学)

モデレーター：櫻井孝規先生 (京都大学)

テーマ：皮膚疾患

症例検討

座長：植村芳子先生 (関西医科大学)

857 皮膚腫瘍の 1 例

城光寺龍先生, 他 (日生病院病理診断科, 他)

858 鼻部皮膚腫瘍の 1 例

市川千宙先生, 他 (神戸市立医療センター中央市民病院臨床病理科)

特別講演

座長：村垣泰光先生 (和歌山県立医科大学)

『皮膚腫瘍における診断と治療の進歩 ～ダーモスコピーを含めて～』

土田哲也先生 (埼玉医科大学皮膚科)

病理講習会：「皮膚疾患」

座長：村田晋一先生 (和歌山県立医科大学)

羽賀博典先生 (京都大学)

1. 皮膚の色素性病変

山本鉄郎先生 (国立病院機構京都医療センター病理診断科)

2. 皮膚の軟部腫瘍

岩佐葉子先生 (京都市立病院病理診断科)

3. 皮膚の悪性リンパ腫

浦田洋二先生 (京都第一赤十字病院病理診断科)

II. 今後の活動予定

第 68 回日本病理学会近畿支部学術集会

日時：2015 年 2 月 14 日 (土)

場所：大阪市立総合医療センターさくらホール

世話人：森井英一先生 (大阪大学)

モデレーター：棟方哲先生 (市立堺病院)

テーマ：婦人科—子宮頸部病変

特別講演

『子宮頸部病変の産婦人科的取扱い』

植田政嗣先生 (大阪がん循環器予防センター婦人科)

診断講習会

1. 子宮頸部病変における WHO 分類の変更点と扁平上皮病変の解説
長田盛典先生 (大阪府立成人病センター病理・細胞診断科)
2. 子宮頸部腺系病変の解説
若狭朋子先生 (近畿大学医学部奈良病院病理診断科)
3. まれな子宮頸部扁平上皮病変の解説
堀由美子先生 (大阪大学医学部病態病理学講座病理診断科)
4. まれな子宮頸部腺系病変の解説
山田隆司先生 (大阪医科大学病理学教室)

-- 中国四国支部 -----

中国・四国支部編集委員 串田 吉生

A. 開催報告

1. 第 115 回学術集会

開催日：平成 26 年 11 月 1 日 (土)

場所：広島大学医学部第 5 講義室

世話人：国立病院機構 東広島医療センター 病理診断科
万代光一先生

一般演題 17 題と剖検症例 1 題が集まり、活発な討議が行われました。発表スライドや投票結果は<<http://csp.umin.ne.jp/pctindex.htm>> から見る事が出来ます。また、広島大学大学院医歯薬保健学研究院 口腔顎顔面病理病態学教授 高田 隆先生による特別講演「一般病理医に必要な顎口腔領域における病理の知識」も行われました。

一般演題

演題番号 / タイトル / 出題者 (所属) / 出題者診断 / 最多投票診断

S2528 / 耳下腺腫瘍 / 大林真理子 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院 口腔顎顔面病理病態学) / Epithelial-myoepithelial carcinoma / Myoepithelial carcinoma

S2529 / 乳腺腫瘍 / 長崎敦洋 (中国労災病院病理科) / Adenoid cystic carcinoma / concord

S2530 / 乳腺腫瘍 / 前田智治 (愛媛県立中央病院 病理診断部) / Pseudoangiomatous stromal hyperplasia / concord

S2531 / 肺腫瘍 / 櫛谷桂 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院 病理学) / Fetal lung interstitial tumor / Pleuropulmonary blastoma

S2532 / 肺腫瘍 / 倉岡和矢 (呉医療センター・中国がんセンター 病理診断科) / Extraskelatal osteosarcoma of the lung / Pulmonary artery sarcoma

S2533 / 肺病変 / 小賀厚徳 (山口大学大学院医学系研究科 分子病理学) / Squamous cell carcinoma derived from ciliated papillary muconodular tumor / Squamous cell carcinoma

S2534 / 肝腫瘍性病変 / 徳安祐輔 (鳥取県立中央病院 病理診断科) / Mesenchymal hamartoma / Hemangioma
 S2535 / 肝腫瘍 / 伊吹英美 (香川大学医学部附属病院 病理診断科) / Castleman's disease / MALT lymphoma
 S2536 / 肝障害の一例 / 黒田直人 (高知赤十字病院 病理診断部) / Drug-induced autoimmune hepatitis / Autoimmune hepatitis
 S2537 / リンパ節病変 / 坂谷暁夫 (広島赤十字・原爆病院 病理診断科) / Kaposi's sarcoma / concord
 S2538 / 歯肉病変 / 石川典由 (鳥根大学医学部 器官病理学) / Plasmablastoma / Anaplastic large cell lymphoma
 S2539 / 頸部腫瘍 / 沖田千佳 (倉敷中央病院 病理診断科) / Myoepithelial carcinoma / Primitive neuroectodermal tumor
 S2540 / 皮膚腫瘍 / 城間紀之 (広島大学病院 病理診断科) / Infantile myofibromatosis / concord
 S2541 / 胃粘膜下腫瘍 / 石井文彩 (山口大学大学院医学系研究科 病理形態学) / IgG4 related disease / concord
 S2542 / 腎臓腫瘍 / 西田賢司 (岡山大学医歯薬学総合研究科 病理学 腫瘍) / Synovial sarcoma / concord
 S2543 / 子宮体部病変 / 中山宏文 (広島鉄道病院 臨床検査室) / Serous endometrial intraepithelial carcinoma in adenomyosis / Adenomyosis with atypical endometrial hyperplasia
 S2544 / 皮膚腫瘍 / 服部結 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院 分子病理学) / Balloon cell melanoma / Balloon cell nevus
 剖検例
 A254/本邦における重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) の初発例
 亀井敏昭 (山口県立総合医療センター 病理診断科)

B. 開催予定

1. 第 116 回学術集会

開催日: 平成 27 年 2 月 14 日 (土)

場所: 岡山大学医学部

世話人: 岡山大学医学部病理学 (免疫病理) 松川昭博教授

C. 県単位の研究会などの開催報告

1. 第 57 回山陰病理集談会

日時: 平成 26 年 12 月 13 日 (土)

世話人: 鳥根大学医学部附属病院病理部 原田祐治先生

出席: 33 名

臓器 / 病理診断名 / 発表者

764 リンパ節病変 / Hodgkin lymphoma Inixed cellularity / 鳥根県立中央病院 大沼秀行 他
 765 胃粘膜下腫瘍 / Calcifying fibrous tumor / 鳥根大学医学部 細田裕枝 他
 766 腹腔内病変 / Malignant mesothelioma biphasic / 鳥根大学医学部病態病理学 天野知香 他
 767 腎腫瘍 / Mucinous tubular and spindle cell carcinoma / 鳥根大学医学部 小松貴義 他
 768 子宮体部腫瘍 / Rhabdomyosarcoma+serous adenocarcinoma / 浜田医療センター病理診断科 長崎真琴 他
 769 卵巣腫瘍 / Seromucinous borderline tumor / 鳥取県立中央病院 病理科 小作大賢 他

770 外陰腫瘍 / Müllerian-derived cyst / 鳥取大学医学部附属病院病理部 堀江 靖 他
 771 乳腺腫瘍病変 / Encapsulated papillary carcinoma with invasion / 松江赤十字病院病理診断科 高橋卓也
 772 頭部皮膚腫瘍 / Basal cell carcinoma / 岡山大学第一病理・免疫病理 山口隆廣 他

2. 第 368 回高知病理研究会

日時: 平成 26 年 9 月 30 日

世話人: 高知大学医学部附属病院病理診断部 戸井慎先生

KS1602 / 左前頭部円蓋部髄膜腫瘍 / 高知赤十字病院病理診断科部 黒田直人

KS1603 / 下部直腸腫瘍 / 高知医療センター病理診断科 林昭光

KS1604 / 子宮体部腫瘍 / 高知赤十字病院病理診断科部 黒田直人

3. 第 369 回高知病理研究会

日時: 平成 26 年 10 月 25 日

世話人: 高知医療センター病理診断科

岩田純先生, 松本学先生

KS1605 / 耳下腺病変 / 高知赤十字病院病理診断科部 吾妻美子

KS1606 / 頬部皮膚腫瘍 / 高知医療センター病理診断科 松本学

KS1607 / 腎腫瘍の一例 / 高知赤十字病院病理診断科部 黒田直人

KS1608 / 足底皮膚病変 / 高知医療センター病理診断科 松本学

-- 九州・沖縄支部 -----

九州・沖縄支部編集委員 大石 善丈

第 342 回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日時: 平成 26 年 11 月 15 日

場所: グランプラザ中津ホテル

世話人: 中津市民病院 山本一郎

参加人数: 103 名

発表者 / 発表者の所属 / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名 / 臨床診断あるいは発表演題名 / 発表者の病理診断 / 討論後の病理診断 / 最多投票診断名

座長: 孝橋賢一 (九州大学形態機能病理)

1. 大門康子 / 福岡大学病理学 / 78 / 男性 / 左扁桃 / 左扁桃腫瘍 / spindle cell carcinoma / spindle cell carcinoma / carcinosarcoma

2. 渡辺次郎 / 公立八女総合病院 / 26 / 男性 / 顎下部 / 顎下部腫瘍 / mucoepidermoid carcinoma / mucoepidermoid carcinoma / oncocytoma

座長: 米増博俊 (大分赤十字病院)

3. 奥村幸彦 / 九州大学形態機能病理 / 70 / 男性 / 肝 / 肝腫瘍 / combined HCC+neuroendocrine carcinoma / combined HCC+neuroendocrine carcinoma / combined HCC+small cell carcinoma

4. 頼田顕辞 / 宮崎大学腫瘍再生病態学 / 56 / 男性 / 膝 / 膝腫瘍 / MCN / MCN / MCN

座長: 西田陽登 (大分大学診断病理学)

5. 牟田紘子 / 久留米大学病理学 / 46 / 男性 / リンパ節 / リンパ節病変 / Kikuchi's disease / Kikuchi's disease / Kikuchi's disease

6. 名和田彩 / 産業医大第二病理 / 87 / 男性 / 右腋窩部 / 右腋窩部病変 /
signet ring cell apocrine carcinoma / apocrine carcinoma / apocrine carcinoma
座長：大石善丈（九州大学形態機能病理）
7. 佐藤奈帆子 / 北九州総合病院 / 55 / 女性 / 子宮 / 子宮腫瘍 /
rhabdomyosarcoma, embryonal / rhabdomyosarcoma, embryonal /
rhabdomyosarcoma
8. 丸塚浩助 / 県立宮崎病院 / 50代 / 女性 / 骨盤内 / 骨盤内腫瘍 / epithelioid
IMT / epithelioid IMT / mesothelioma
座長：佐藤勇一郎（宮崎大学病理診断科）
9. 今村健太郎 / 福岡大学筑紫病院 / 48 / 男性 / 左鼠径管 / 左鼠径管内腫瘍
/ spindle cell lipoma / cellular angiofibroma / angiomyolipoma
10. 草場敬浩 / 大分大学診断病理学 / 56 / 男性 / 膝部皮下 / 膝部皮下腫瘍 /
myopericytoma / myopericytoma / microcystic stromal tumor
座長：本田由美（熊本大学病理診断科）
11. 矢吹慶 / 産業医大第一病理 / 57 / 男性 / 皮膚病変 / 皮膚病変 /
lymphedema / lymphedema / fibromatosis
12. 北園育美 / 鹿児島大学人体病理学 / 61 / 男性 / 皮膚 / 皮膚腫瘍 / atypical
fibrous histiocytoma / atypical fibrous histiocytoma / atypical fibrous
histiocytoma
13. 田崎貴嗣 / 鹿児島大学分子細胞病理学 / 2 / 女性 / 左大脳 / 左大脳病変 /
hemimegalencephaly / hemimegalencephaly / cortical dysplasia

また会の半ばで学術講演が開催されました

演題 「腎生検病理のみかた」

演者 福岡大学 病理学 久野 敏先生

=====
 病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mailなどで御投稿下さい。病理専門医部会会報編集委員会：村田哲也(委員長)、望月 眞(副委員長)、深澤雄一郎(北海道支部)、長谷川剛(東北支部)、九島巳樹(関東支部)、森谷鈴子(中部支部)、桑江優子(近畿支部)、串田吉生(中国四国支部)、大石善丈(九州沖縄支部)
 =====